

第43回全国消防殉職者慰霊祭

第43回全国消防殉職者慰霊祭は、内閣総理大臣代理 阪田内閣官房副長官補、総務大臣代理 池田消防庁長官、防災担当大臣代理 高橋内閣府政策統括官をはじめとするご来賓の方々と、都道府県のご遺族及び全国消防関係者のご参列のもと、10月3日（木）ニッショーホール（港区虎ノ門）において、執り行われました。

日本消防協会では、昭和57年以来、毎年、全国消防殉職者慰霊祭を行っており、本年は3柱（みはしら）の御霊が新たに合祀され、明治5年からの消防殉職者等の御霊は、5,790柱となりました。

今年の慰霊祭は、新しい日本消防会館の最初の公式行事として開催することができ、全国から多くのご遺族の方々にご参列を賜り、約500名のご参列者のもとで挙行することができました。式典では、内閣総理大臣、総務大臣及び遺族代表の「追悼のことば」を頂き、その後、参列者の皆様による献花が行われ、厳粛のなかに執り行われました。



【式辞 日本消防協会 会長 秋本敏文】

これより第43回全国消防殉職者慰霊祭を執り行います。たまたま日程が厳しい日となりましたが、全国からご遺族をお迎えし、またご来賓の方々にもご参列を頂き、厳粛のうちに執り行うことができました。ありがとうございました。

殉職事故の防止には、関係者一同最大の努力をいたしておりますが、今年は新たに3柱の御霊

を合祀することとなり、御霊は、合わせて5,790柱となりました。それぞれ、消防使命達成のため全力を尽くして殉職された方々であり、深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。そして、安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

今年の慰霊祭は、この程完成しました新しい日本消防会館の最初の公式行事として執り行わせて頂いたのですが、この新会館は、全国の消防関係の方々を始めとする多数の方々のご支援ご協力によって完成したものでありまして、私どもとしては、深く感謝申し上げているのですが、消防関係の多数の方々のご参列のもと、この会館で執り行うことは、言葉にしにくい感激であります。

今年は、新年早々能登半島で地震津波が発生し、その後も大雨災害が発生するなど、近年はこれまでと様相が異なる大規模な災害が世界各地で頻発しており、消防の役割は益々重く大きくなっていますが、事故なく無事に消防が使命を果たすことができるよう、この新しい会館も最大限活用しなければなりません。

そのような思いも込めながら、この新会館での初めての慰霊祭でございます。殉職事故防止、消防活動の一層の充実にひきつづき努力してまいります。

最後にそのことを重ねて申し上げながら御霊の安らかなご冥福、そしてご遺族の方々のお幸せを心からお祈り申し上げまして、式辞とさせていただきます。



秋本会長による式辞



山口副会長による開式のことば



御霊の奉納



内閣総理大臣代理

阪田内閣官房副長官補による追悼のことば

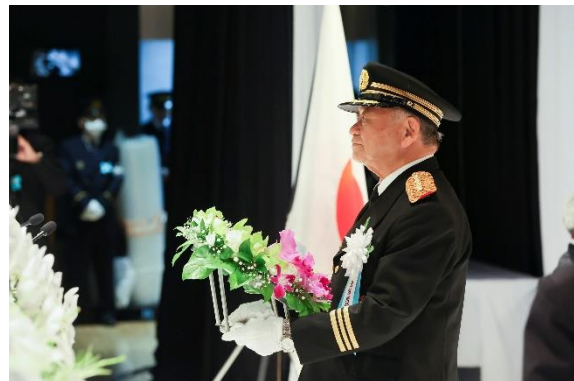


総務大臣代理

池田消防庁長官による追悼のことば



遺族代表による追悼のことば



秋本会長による献花



遺族代表による献花



内閣総理大臣代理
阪田内閣官房副長官補による献花



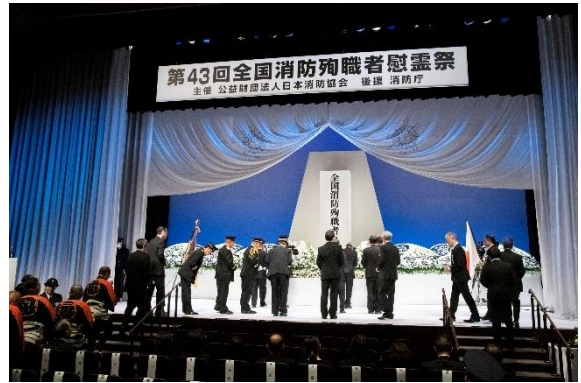
総務大臣代理
池田消防庁長官による献花



防災担当大臣代理
高橋内閣府政策統括官による献花



吉田全国消防長会会長による献花



参列者による献花



ホール着席状況



鎮魂の歌（木遣り）【江戸消防記念会】



秋本会長あいさつ



安満副会長による閉式のこたば